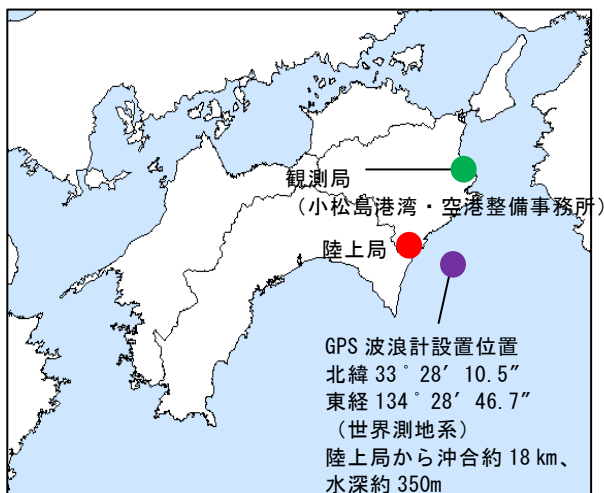


平成27年1月6日
四国地方整備局
小松島港湾・空港整備事務所

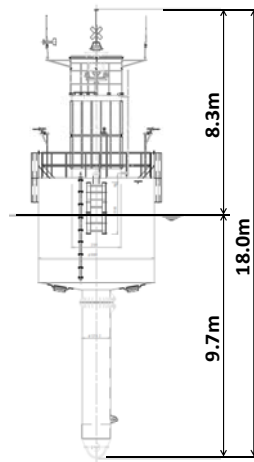
徳島海陽沖にGPS波浪計を再設置します

- 四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所では、平成25年3月に流出した徳島海陽沖GPS波浪計を再設置いたしますので、お知らせします。
 - ・場 所：徳島県海部郡海陽町竹ヶ島沖約18km地点（水深約350m）
 - ・設置予定日：平成27年1月16日（金）

※設置予定日については、気象海象状況により変更場合があります。
- 再設置にあたっては、平成25年度に実施した「GPS波浪計測設備係留方策検討会」（主催：四国地方整備局港湾空港部）における流出原因、再発防止策等を踏まえ、別紙の設置方法により行います。
- GPS波浪計の観測データは、初期設定等の準備が整ったのち、全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）のホームページで公開します。
(<http://www.mlit.go.jp/kowan/nawphas/>)
- GPS波浪計は、地震発生時に津波観測も可能であり、気象庁等関連機関と連携することにより、沿岸域の津波災害対策にも活用することができます。



【GPS波浪計全景】



～GPS波浪計諸元～

- ・ブイ全高：約18m（喫水線上海上約8.3m）
- ・ブイ直径：約5m
- ・設置水深：約350m



【陸上局全景】

海上に設置されたブイとの双方向通信や観測したデータを観測局に伝送するための施設

○問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所

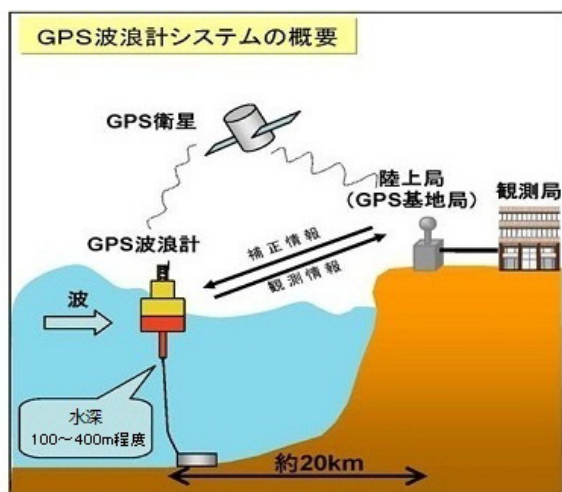
電話番号 (0885) 32-3357

(担当) 副所長 小松 浩二
沿岸防災対策官 田村 節雄

GPS波浪計（波浪観測データ公表）

概要

GPS波浪計は、衛星を用いた測位システムであるGPS（全地球測位システム）のうち、リアルタイムキネマティック測位（RTK-GPS）方式を活用し、沖合に浮かべたブイの上下変動を計測することで、波浪や潮汐等の海面変動を、数cmの精度で観測するシステムです。

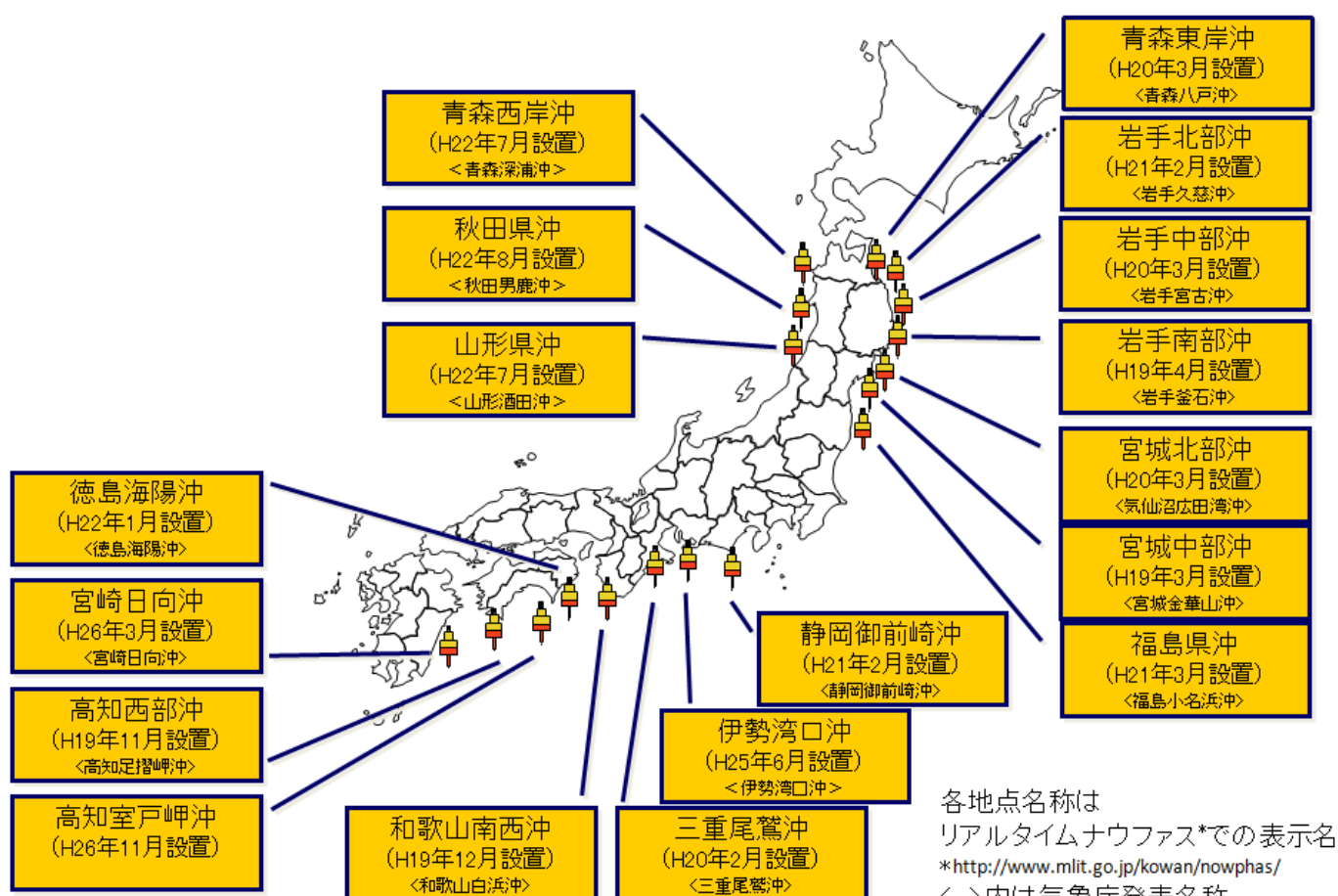


沖合ブイ設置状況



陸上局

室戸岬沖GPS波浪計
(H26年11月設置)



観測データの公表について

GPS波浪計の観測データは、「全国港湾海洋波浪情報網『リアルタイムナウファス』」から閲覧することができます。有義波高及び有義波周期を閲覧することができます。

徳島海陽沖GPS波浪計 具体的な設置方法

- 「GPS波浪計測設備係留方策検討会」における流出原因、再発防止策(平成25年11月)を踏まえ、具体的な設置方法の検討を行い、平成27年1月16日に、再設置する予定。
- 流出原因であるチェーンの立ち上がり部が複雑に絡み合った状態を回避するため、アンカー着底後にチェーンを起重機船から切り離す工法を採用するとともに、チェーンを海底部に展張させるために、シーアンカーを使用するなど、チェーン、アンカーの設置方法に工夫を施す。
- また、チェーンの立ち上がり部の材質を強化するとともに、設置場所を当初よりも浅い場所に変更する。

■再発防止策を踏まえた設置方法概要

(1)チェーン立ち上がり部の絡まり防止対策(設置方法の工夫)

- ①アンカー着底後にチェーンを切り離す工法の採用
 - ・アンカーを自由落下させる当初の設置方法に代わり、アンカー着底後にチェーンを起重機船から切り離す方法を採用する。
- ②シーアンカー(水中パラシュート)の使用
 - ・シーアンカーを使用することにより、アンカー投入後の波浪計ブイの水上走行速度を低減させ、海底部のチェーンを展張させる。

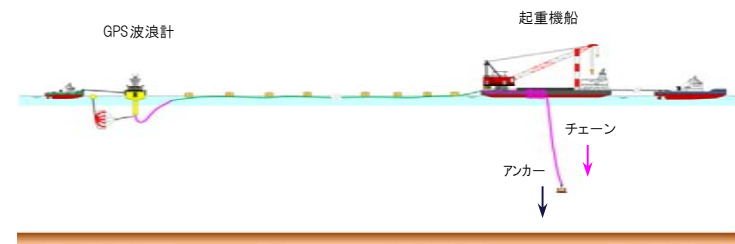
(2)チェーンの耐摩耗性の向上

- ・チェーン立ち上がり部の材質を、重量を変化させることなく、強度と耐摩耗性の大きい材質に変更する。

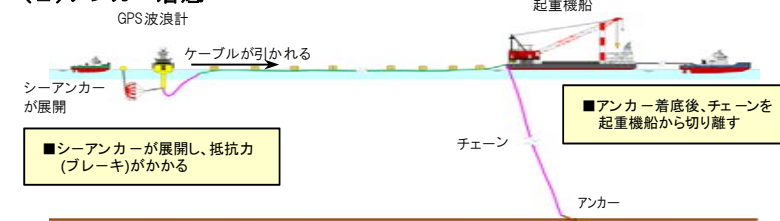
(3)当初よりも水深が浅い場所に再設置

- ・設置場所を、当初の設置場所(水深430m)よりも、浅い場所(水深350m)に設置する。

(1)チェーン、アンカー 設置開始



(2)アンカー 着底



(3)海底部チェーン展張、設置完了

